

令和6年度(2024年度) 第2回新たな事業の検討部会 会議概要

- 1 日時 令和6年9月12日(木) 午前10時00分～11時05分
- 2 場所 函館市企業局 4階 大会議室
- 3 出席者 委員(10人)
松崎静江委員, 佐々木香委員, 鏡典子委員, 小林裕司委員, 須賀昌昭委員,
秋山範文委員, 渡邊秀雄委員, 阿部泰人委員, 池田誠委員, 宮川真人委員
事務局(4人)
事務局長 百成慶恭(環境部環境政策課長)
事務局員 館澤裕次(同課主査), 佐々木竜吾(同課主任),
高島一輝(同課主事)
- 4 傍聴者 なし(随行者2人(北海道ガス株式会社函館支店および
渡島総合振興局保健環境部環境生活課))
- 5 発言要旨
 - (1) 開会
(事務局)
 - ・ 事務局長あいさつ
 - ・ 資料の確認
 - ・ 部会長あいさつ
 - (2) 議事
(池田部会長)
 - ・ それでは議題に入る。
まず提案4について, 協議会として補助事業が可能かについて, 事務局に確認を
してもらったこととしていたので, 事務局から説明をお願いします。

(事務局)

 - ・ 市の予算を財源として補助事業を実施することについて, 現在協議会では独自の
予算を持っていないことから, できないとのことであった。市のルール上, 全額補
助ということができないため, この案のままでは難しい部分があるが, やるとすれ
ば, 協議会の中で, 協賛金などを募り, 補助金となる原資を, 必要経費の半分ほど
集めたいと, そこに函館市から補助金としてお金を出すということはできる。よ
って原案通りにいくと提案として通せないが, 議論していく中で, 形を変えて提案
するということが可能である。
協議会事業として実施可能だが, それであれば, 函館市からは必要経費の全額は
出せないの, 一定の額を協議会より何らかの形で支出していただくことが必要で
ある。

(須賀委員)

 - ・ 提案4については, 家庭と比べて業務用のこういった補助金が現在無く, こうい
ったものを準備することでCO2の排出削減につなげるということが目的である。
協議会から拠出して実施するということが, イベントなどであれば良いが, 今回の
提案のように協議会の拠出を原資に充てて市が補助事業を行うというのが, はたし
て市民に納得が得られるかなど, そういった部分もあることから, 私どものスタ
ンスとしては, 協議会で実施するのは取り下げても良いと考えている。

(池田部会長)

 - ・ 提案4について, 提案者である北ガスより取り下げの意向があったが, それでよ
ろしいか。

※意見等なし。

 - ・ では, 提案4については取り下げることとする。

(池田部会長)

- ・ 次に提案5について、追加資料をいただいているので、小林委員より説明をお願いします。

(小林委員)

- ・ 今回追加で出した資料は、シンポジウム開催に向けた経費の内訳となるが、この中には他の地域へのヒアリングや視察等の費用は一切含まれていない。また、各種講師謝礼金や関連費用として挙げているものは、専門家の派遣だったり、著名講師であったり、金額が読めない部分があるため、余裕をもって計上させてもらっている。

次に、参加者用リストバンドについてだが、これは入場券として手首に付けるロゴ入りのシリコンバンドを想定している。

説明としてはこれくらいであるが、資料を見て、何か不明な点などあればお願いしたい。

(松崎委員)

- ・ 市民に地球温暖化ということについて伝えるために、もう少し繊細に資料を作ることが必要だと思う。

(鏡委員)

- ・ 市民への機運醸成や周知の部分では良いと思う。ただ、市民会館の収容人数である1,370人を集めるのは大変ではないかと考えている。

(小林委員)

- ・ たしかにその通りで、1,370人の集客を出来るとは考えていない。ただ、同友会では企業が500社集まっている会なので、そこでの全力を尽くした動員のほか、周知行動に力を入れていきたいと考えている。また、環境に対して造詣がある著名人を呼ぶことが出来れば、費用の面で課題もあるが、一定程度の集客はあると考えている。

今、若い年代が環境問題に対しての興味が薄いと考えているため、そういった年代に対して知らしめていければと思う。この事業は3、4年かかるものと想定しており、その前段としてのシンポジウムと考えている。シンポジウムの後にフェスを開催出来たとすると、ステージ上だけでも再エネ電気で展開できればと思う。ここに使った太陽光パネルについては、将来的には市の財産として活用し、市民の皆さんに還元出来ればと考えている。実際に他の自治体では、ご当地電力を立ち上げて市民の方々に供給している例もある。そういった広がりのある展開が出来ればとも考えている。

(佐々木委員)

- ・ 今までにない取組であるため、良い提案だと思う。集客に関しては、方法がいろいろあると思うので、皆さんにご協力いただきながら、一人でも多くの方に伝わる方法で頑張っていければと思う。

(阿部委員)

- ・ なかなかないイベントであり、魅力的な提案だと思う。若年層に対する機運醸成や、少子高齢化が進んでいる函館においては、若者が集まって交流することによって、お互いが元気づく場になると思うので、そういった意味でも魅力的だと考えている。

また、イベント全体としてCO₂があまり出ていないのかの確認や、出しているCO₂の量を書くことによって、CO₂排出量に興味を持ってもらうきっかけになるのかなと思っている。

(池田部会長)

- ・ 他に意見等あるか。無ければ、今の時点でこの提案についてご理解いただいているものとするがどうか。

※意見等なし。

(池田部会長)

- ・ では次に、提案7および提案9について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- ・ (配付資料P16の事務局提案追加資料について、提案7と提案9について取り下げをする旨説明。)
- ・ 提出していただく提案については、市の方で予算要求をした後、予算がついた場合には協議会として事業を進めていくこととなりますので、これが本当に協議会の皆様で進めていける事業なのかどうかを考えていただければと思う。
例えば、Jクレジットに関して言えば、少なくとも函館市は市有林はクレジットを販売していないので、これをどこから購入するのかや、Jクレジットであれば、基本的に法人しか購入出来ないものだが、協議会事業としてやっていくのであれば、どのように購入するのかなどの確認が必要だと思う。
また、提案5については、フェスをやりますということであれば、行政目的として地球温暖化対策になると思うが、このフェスをやるためのシンポジウムということになれば、そもそも事業をやるための中身を固めるのがこの協議会の役割だと思うので、地球温暖化対策としてのゼロエネルギーフェスをやるためのシンポジウムを開催するということが、果たして地球温暖化対策に直結するかどうかについて、理解がついていけない部分があるため、皆様のほうで、そのあたりも含めてご検討いただければと思う。

(池田部会長)

- ・ では、提案7および9は提案を取り下げるということで良いか。

(事務局)

- ・ 問題ない。

(池田部会長)

- ・ 提案4についても取り下げるということだったので、今のところ提案5と、まだ説明をしていないが提案2が残っている状態である。ここで改めて、提案2について説明をお願いしたい。

(須賀委員)

- ・ (配付資料P1の提案2について改めて説明。)

(佐々木委員)

- ・ 先ほどの事務局の2つの提案について、取り下げるという話は非常に残念である。地球温暖化対策の事業に対する国からの補助金は無いのか。そういったものがあれば、活用していけば良いと思う。エコポイントについても、詳しいことはわからないが、例えば未来大学と連携してアプリの制作を行うだとか、グリーン事業所登録制度についても、参加する事業所が少ないかもしれないという見通しは残念である。
コロナ禍で大変な事業者もありながら、コロナによって収益を上げている事業者もある。先日聞いた話によると、釣具屋がものすごい儲かっている、そこと連携すれば、子供たちに高額な釣り具セットを多く提供してもらった事業者もあることから、もう少し皆さんのネットワークを駆使して、アイデアを持ち寄れば、何とか事業を展開出来たのではと思った。
今回のカプセルトイについても、今までにない目新しい事業だと思うので、子供たちにおもしろさが伝われば、広がっていくと思う。ただ、カプセルトイの中身が重要であり、マスコットキャラクターのデザイン料にお金がかかってしまう可能性はあると思う。カプセルトイ1個500円という値段は、親や祖父母の立場からしても、なかなか高額なものになるので、500円を出してまでも欲しいと思えるような中身にする必要があると思う。

事業としては魅力的だと思うので、何とか実現させたいと考えている。

(宮川委員)

- ・ J ブルークレジットを活用する事業だが、一般市民にはまだ馴染みのない言葉だと思う。知っていたとしてもそれを活用して事業参加するというのがなかなか難しいものだと思うが、この事業であればかなり安価で参加することが出来るため、良い事業だと思う。また、参加すると、僅かかもしれないが、脱炭素への貢献という部分を実感していただけるので、良いと思う。300円でオフセットするような作りになっているが、ブルークレジットが1tあたり8万円なので、1kgあたりだと80円になり、300円分だと約3kgのCO₂のオフセットになる。その3kgをオフセット出来たという必然性みたいなものを説明出来ればもっと良いと思う。

(池田部会長)

- ・ 現時点で、残っている事業提案は提案2と提案5である。今後のやるべきこととして、優先順位をつける必要がある。各提案についてそれぞれ意見をいただいたところだが、優先順位をつける上で、意見等あればいただき、そこで優先順位が決まれば良いが、もし決まらなければ、本日出席の委員の皆様からの投票で決めることにしたいと思う。

では、優先順位を決める上での意見等あれば発言願いたい。

(事務局)

- ・ 前提条件として、前回からお話している通り必ずしも1位2位を決める必要があるということでは無く、新年度予算に向けて、協議会として提案するかどうかという部分もあると思う。前回事務局が取り下げた、協議に時間のかかる事業である提案8のように、今回の部会の残り時間が約1時間という中で、議論が煮詰まって、実際に予算が付けば協議会のほうですぐに動き出せるというようなものであれば、ご提案していただければと思う。引き続き協議が必要ということであれば、今回の提出は見送るという選択肢も十分あり得ると思う。必ずしも今回提案をしなければならないということではない。

(池田部会長)

- ・ 優先順位を付けずに提案するのは可能か。

(事務局)

- ・ 紙に書いて出してもらおうとすれば、提案2つのうち、両方とも丸でないという状況があるのなら、片方にだけ丸となるかもしれないし、両方とも今回は見送って、継続協議にした方が良いということなら、空欄ということもあると思う。もしくは紙ではなく挙手制にするのかということもある。

(池田部会長)

- ・ 残っている2つの提案について、委員の皆様が自分事として、あまり事業に関わりたくないというものがあれば意見をいただきたいし、また、積極的に事業に関わっていきたいと考えていれば、肯定的な意見もお話いただきたいと思う。

(佐々木委員)

- ・ どちらの提案についてもやる気がある。道のほうで、今回の地球温暖化対策の事業に使える補助金などあれば教えてほしい。

(宮川委員)

- ・ 確認しておく。

(鏡委員)

- ・ 今の段階で言うと、提案2のほうが比較的取り組みやすいという印象がある。先ほども申し上げたとおり、参加企業は少ないのかもしれないが、そこから少しずつ、皆様に周知していく、そういったことに寄与出来ればと考えている。

(秋山委員)

- ・ 提案2については、一企業の立場でお話させていただくと、一日中この事業に企業の人間が張り付くということはないため、何かお手伝い出来ることがあれば、積極的に参加したいと思う。また、事業を実施するにあたって、道の駅等に負担をかけることになるかもしれないが、そういったところで補充などをやっていただければ、あまり他の企業から何十人も人が出ることがなく実施出来るし、最終的に藻場の再生に役立つのであれば、こういった取組は良いと思う。

提案5については、こちらは実行委員会の立ち上げなど、そういった部分を含めて、この事業に一企業が人を専従的に派遣したりなどはなかなか出来ないと思う。例えば防災マルシェでは、弊社は高所作業車の乗車体験を行ったりするが、そういった部分でお手伝いは出来ると思うが、実行委員になって事業に張り付くというのは難しい。ここは協議会の皆様の意見も聞きながら、携われる規模や人数なども含めてご検討いただいたほうが、実現性の有無について確認出来るのかなと思った。

(渡邊委員)

- ・ 残った2つの提案について、どちらも興味深いものだと思う。函館高専の学生の感覚を申し上げると、環境問題について一定程度意識はあるが、具体的に何をやったら良いかがわからないというのが実情だと思う。その意味において、今回残っている2つの提案は、どちらも意識醸成や、簡単な取組で環境問題に貢献をしているという実感が持てるという部分において、すごく重要だなと感じている。特に提案2ではカプセルトイレを買うことで地球温暖化対策に貢献しているという実感を持てるということが、今喫緊に求められていることであると思うので、この事業に賛成している。ただ、主体的に函館高専が関われるかと言われれば、人員不足で難しい部分もある。

(小林委員)

- ・ 例えばフェスを開催するに向けて、それを議論するたたき台をある程度決める段階で、皆様のお力を借りていきたいが、実際動いていただくのは、また違った方々になるのかなと思う。学生のボランティアなども必要になると思う。

先日、未来大の学生で、休学して企業をして、同友会に入った方がいる。その方に話を聞くと、大学を辞める事前提で就職すると話をしていて。自分たちであれば、良いところに就職したら生涯働くという発想になると思うが、今の学生は違う。良いところに勤めたとしても、そこで得た経験を活かして、さらにステップアップしていこうとする。そういうことになれば、地元に残らない方々が増える。サッカークラブなどでもそうだが、学生のうちから囲い込みということをしていて、そうしないと集まらない、子供がいない、というのが現状である。若い方々をつながっていけるような活動が出来ればと思っている。協議会にはいろいろな学校関係者もいらっしゃるのだから、そういった部分で周知いただいて、ご協力いただければと考えている。若い方々の発想や力が重要になってくると思う。全てをこの委員の方々に負担していただくとは考えておらず、大きい事業なので、フェスということになれば手から離れるのかなと思っている。商工会などの団体全てを巻き込んで、全ての函館市民に周知をしていただきたいと思います。企業として派遣は難しいとかではないと思う。月に一度、同友会も100名程度の例会があるが、常にどこかしの会場を設けて、必要機材を整備して行っている。そういった経験もあるため、企画などは出来るのではと考えている。

(池田部会長)

- ・ 残っている2つの提案について、ある程度ご意見などいただいたかと思うが、ここからどの提案を出すか、優先順位も含めて決めていきたいと思うがどうか。

(事務局)

- ・ 残っている提案が2つのため、優先順位は無くても構わない。

(池田部会長)

- ・ 残っている2つの提案について、これから賛成かどうかを挙手制で判断していきたいと思うが、その前に確認しておきたいことなどあるか。

(阿部委員)

- ・ フェスで何か販売するなど考えているか。

(小林委員)

- ・ シンポジウムにしてもフェスにしても、例えばカプセルトイの設置は出来ると思うし、フェスに関しては、物販やフードなど、出店する方向で考えている。その売り上げや出店料をフェスの開催費用に充てていきたいと思う。

(阿部委員)

- ・ その趣旨について、著名な方などにお話していただくとかすると、参加者に受け入れやすくなると思う。

(池田部会長)

- ・ では、私を除いた出席委員9名で、事業の賛成反対を挙手してもらうことにする。

提案2について賛成の方は挙手をお願いします。

※賛成8名。

- ・ 提案5について賛成の方は挙手をお願いします。

※賛成7名。

- ・ では、この2つの提案を提出することとする。なお、この2つの事業について確認が必要な事項などあれば、函館市のほうから提案者へ質問があると思うので、そこは協議会の会長として責任を持って、私も入りながら対応していきたいと思う。
- ・ 最後に議題「その他」についてだが、事務局から何かあるか。

(事務局)

- ・ 今後の流れについてだが、部会で決議していただいた内容は、協議会のほうにお諮りしていただくという流れになる。そこで異議など無ければ、協議会から函館市へ事業提案をしていただく形になる。それを受けて、市は事業内容を精査するなどして、予算要求していく流れになる。私どもは予算要求する側であって、予算を付ける側ではない。今回事務局側ということもあり発言はしていないが、今後予算要求するにあたって、正直この資料だけでは、内容やスキーム等について一切わからないので、そのあたりは環境部として十分精査した上で、引き続き粛々と事務手続きを行っていききたいと思う。

(池田部会長)

- ・ では、予定していた議事が終了したので、この後は事務局で進行をお願いします。

(3) 閉会